

育児期の生活実態

～洗濯・掃除の意識と行動～

花王生活科学研 ○平井 淳子 大島 昌子 根橋 勉

目的) 大人だけの生活に赤ちゃんが加わることで生活の意識は大きく変わり、それによって家事行動のウェイトづけや頻度、やり方、夫婦間の協力の仕方などが変化するものと考えられる。その実態を把握し、現状における特性や課題を明らかにする。

方法) 郵送法(自記式)。実施時期: 1994年 8~9月。有効回収数 703組。

回答者: 2才以下の子供をもつ女性(首都圏在住、専業主婦が9割)とその夫

内容: 洗濯、掃除に関する意識と行動(頻度の変化、実行者、欲しい情報などについて)

結果) (1)妻、夫ともに最も重視しているのは「育児・子供のこと」。妻の家事への関心は決して低くなく「子供のために」手を抜けないという意識が伺える。

(2)日常生活で気になることは、「ホコリ」「ダニ」「食品の安全性」など。

(3)子供ができて頻度が上がった家事は洗濯と床掃除。家事はほとんど妻が行っている。

(4)夫婦で家事を分担・協力するべきだという意識は、約4割の夫がもっている。

また育児の分担意識は6割の夫がもっており、子供の入浴は夫の分担率約4割。しかし、オムツ換えはほとんど妻が行っている。

(5)生活情報の要望は高く、洗剤等の誤飲の処置、シミぬき、乳幼児の肌や髪の手入れなどについて特に望まれている。子供を中心においた視点からの家事情報が不足している。